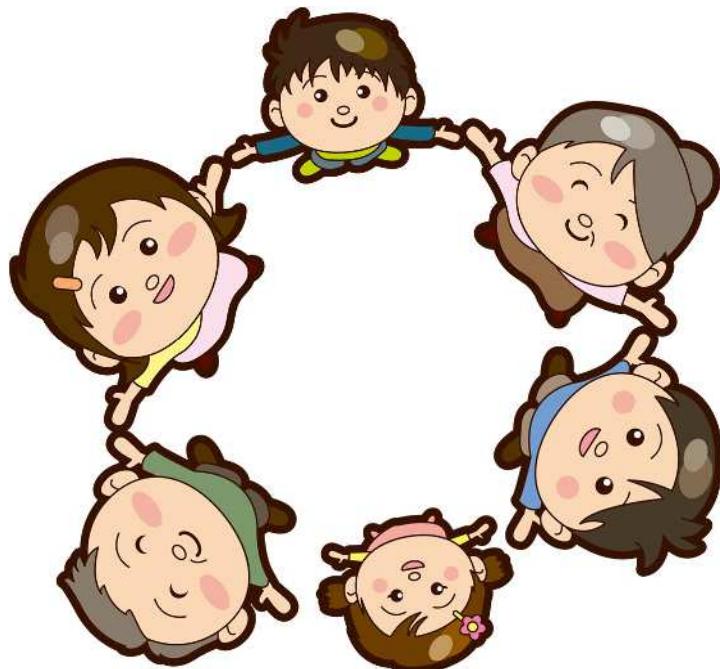


はんだ学びプラン

第3次半田市生涯学習推進計画
改訂版（案）



令和3年4月
令和8年4月改訂

半田市教育委員会

ごあいさつ

本市では、令和3年4月に「第3次半田市生涯学習推進計画」を策定し、市民一人ひとりが生涯にわたって主体的に学び、学んだことを地域や社会に活かしながら、自分らしく豊かな人生を送ることができる生涯学習社会の実現を目指して取り組んでまいりました。

策定から5年が経過する中で、社会を取り巻く状況は大きく変化しています。少子高齢化の進展や地域コミュニティの希薄化はもとより、デジタル技術の急速な進展や普及、市民のライフスタイルの多様化など、生涯学習を取り巻く環境は大きく様変わりしています。

「人生100年時代」を迎え、誰もが人生を自分らしく生き抜くためには、生涯を通じて学び続けることが不可欠です。そして、学びを通じて、心身ともに健康で満たされた状態、すなわちウェルビーイングを実現することが、社会において一層重要となっています。

こうした変化や状況に対応し、より実効性のある施策を進めていくため、計画の中間見直しを実施しました。

見直しにあたっては、課題を整理し、社会環境の変化や新しい時代の要請に応じて必要な施策を位置づけました。計画の基本理念や骨格は維持し、デジタル技術を活かした学習支援、働く世代の学び直しの推進、若い世代の学習環境の充実など、今日的な課題に対応する施策を盛り込んでいます。

計画の改訂にあたり、貴重なご意見をいただきました半田市社会教育審議会委員の皆様を始め、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

本市はこれからも、市民の皆様が自らの可能性を広げ、学びを通じて人生を豊かにし、世代を超えて支え合う社会の実現に向けて、生涯学習の推進に取り組んでまいります。今後とも、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和8年4月

半田市教育委員会教育長 榎原 雅晃

目 次

第1章 計画の概要

第1節	計画の目的と改訂の背景	1
第2節	基本理念	2
第3節	重点項目及び基本目標	3
第4節	計画の位置づけ	4
第5節	計画の期間	4
第6節	計画と SDGs との関係	5

第2章 本市の現状

第1節	本市の生涯学習拠点施設	6
第2節	市民の生涯学習に関する意識	7
第3節	課題の整理	15

第3章 基本目標と施策展開

第1節	「自分づくり」ための学びの応援	17
施策1	学習機会の充実	17
施策2	学習情報提供の充実	20
施策3	読書支援の充実	21
第2節	「ひとづくり」ための学びの応援	21
施策1	生涯学習推進の人材活用と育成	21
施策2	市民の自主的な講座開設のためのシステムづくり	23
第3節	「まちづくり」ための学びの応援	23
施策1	生涯学習施設での学びの応援	23
施策2	伝統行事に参加する市民への応援	24
施策3	地域の資源を生かした各種連携への応援	25
施策4	健康で豊かなまちづくりにつながる学びの応援	26
施策5	文化・芸術活動の参加機会の充実と活性化	27

【資料編】

1	市民からの意見・要望（アンケート抜粋）	31
2	半田市生涯学習推進協議会委員名簿	36
3	半田市社会教育審議会名簿	38

第1章 計画の概要

第1節 計画の目的と改訂の背景

本市では、令和3年4月に「第3次半田市生涯学習推進計画」を策定しました。本計画は、市民一人ひとりが自らの可能性を伸ばし、学びを生活や地域社会に活かしながら、心豊かに生きることができる社会の実現を目的としています。学ぶことは、個人の能力向上や自己実現につながるだけでなく、地域における人と人とのつながりを育み、まちの活力を生み出す力ともなります。そのため、「だれもが楽しみ 学びでつながる 自分づくり ひとづくり まちづくり」を基本理念に掲げ、生涯学習を通じたまちづくりに取り組んできました。

策定から5年が経過する中で、社会環境や市民ニーズは大きく変化しています。全国的に少子高齢化と人口減少が進み、地域コミュニティの希薄化への対応が課題となっています。加えて、デジタル技術の急速な進展は学びの方法を多様化させる一方で、活用に不安を抱く層との格差も生んでいます。さらに、新型コロナウィルス感染症の影響を経て、働き方やライフスタイルの多様化が進み、生涯学習に求められる内容や方法も変わりました。

「人生100年時代」を迎え、長寿社会において一人ひとりが自分らしい生き方を実現するためには、生涯を通じた学びが欠かせません。そして、学びを通じて、ウェルビーイングを実現し、心身ともに健やかで満たされた暮らしを実感できる社会を目指すことが、今後の生涯学習施策において重要な視点となります。

国は「第4期教育振興基本計画」に基づき、生涯を通じた学び直しの推進やリカレント教育、デジタル人材育成などを進めています。また、愛知県においても令和5年度から「第3期愛知県生涯学習推進計画」が施行され、ICT活用や地域資源を生かした学びの推進を重点化しています。

本市では、令和7年度が計画期間の中間年度にあたることから、社会環境の変化や国・県の動向、生涯学習に関するアンケート調査結果や半田市社会教育審議会での議論を踏まえて課題を整理し、計画の見直しを行いました。その結果、基本理念や基本目標は引き続き維持しつつ、社会の変化に対応した修正を加えるとともに、必要な施策を位置づけました。

今後は、この改訂版計画を指針として、市民一人ひとりが生涯にわたり主体的に学び続けることで、自らの可能性を広げ、学びを通じて人生を豊かにし、世代を超えて支え合う社会の実現を目指してまいります。

第2節 基本理念

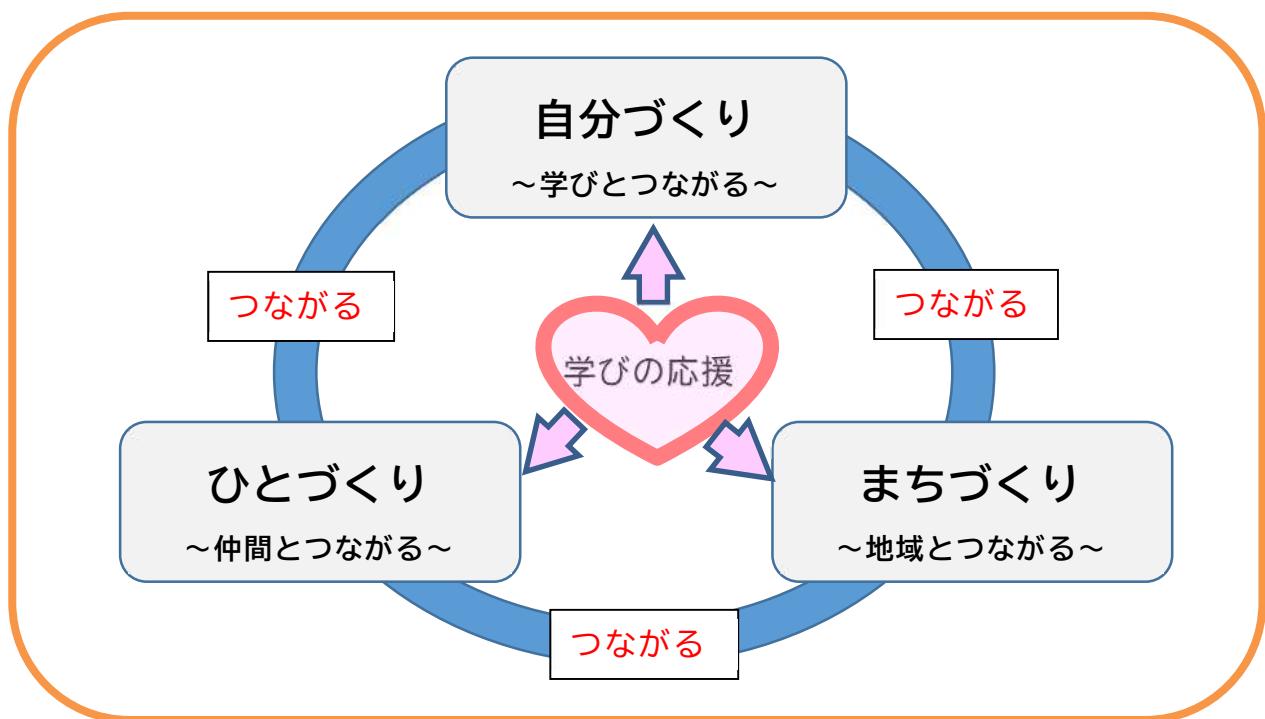
本市がめざす生涯学習の基本理念

「だれもが楽しみ 学びでつながる
自分づくり ひとづくり まちづくり」

「生涯学習社会」とは、いつでも、どこでも、だれもが、自分自身の目的にそって主体的に活動し、充実した人生を送ることができ、その成果が地域社会で適切に評価される社会をいいます。そして、さらに市民一人ひとりが生涯にわたる学習を通して得た成果を活用し、社会の諸活動に参加することが心の豊かさを育み、地域社会を発展させる原動力となります。

市民だれもが主体的に活動し、楽しみながら、自分づくり、ひとづくり、まちづくりにつながる学びを応援していくことをめざし、生涯学習推進計画の基本理念を「だれもが楽しみ 学びでつながる 自分づくり ひとづくり まちづくり」としました。

《基本理念のイメージ図》



第3節 重点項目及び基本目標

「市民一人ひとりのライフスタイルに合わせた学びを応援する」

基本目標

その1 「自分づくり」のための学びの応援をします。

好きなこと・知りたいこととつながることで、生涯にわたって学び続けたいと思い、学ぶ喜びを味わうことができる市民を応援します。

年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わらず、すべての市民が、学びたいことを学びたいときに学ぶ環境を提供します。

また、ライフスタイルに合わせた学習機会を提供します。

その2 「ひとづくり」のための学びの応援をします。

活動の成果を評価したり、学びの技能を習得したりして、新しい指導者の育成や後継者の育成を支援します。

また、学びで得た知識や自分の持つ技能・特性を活かし、地域の活動に積極的に参加し、生活を豊かにしていくための学びの場を提供します。

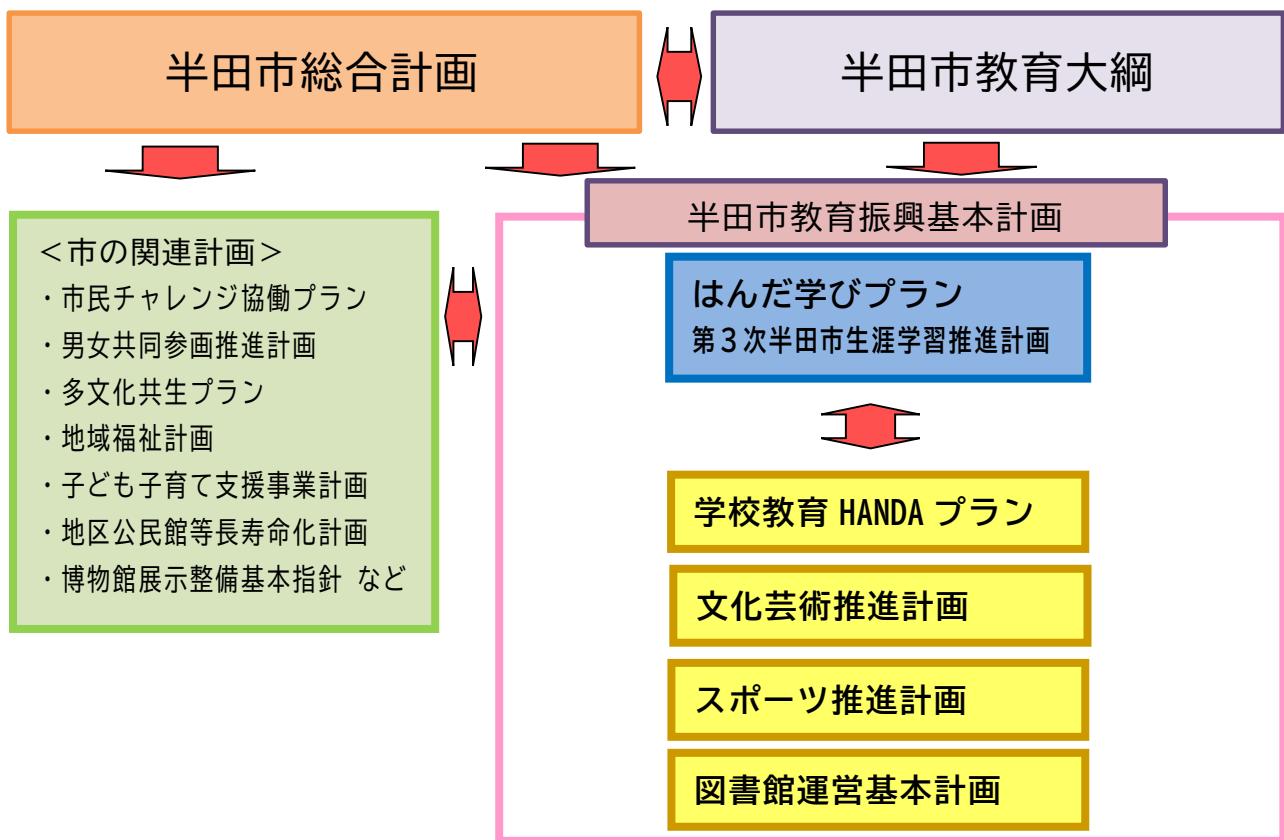
その3 「まちづくり」のための学びの応援をします。

市民自らが我がまち「はんだ」を育てるという意識をもって、生活の向上と豊かな地域社会づくりに取り組むための学習活動を支援します。

地域の活動に参加する。地域の人と学ぶ。地域の施設を活用する。このように、さまざまな形で市民が地域とつながることで地域が活性化し、市民が集うまちづくりの場を提供します。

第4節 計画の位置づけ

本計画は、「半田市総合計画」「半田市教育大綱」を上位計画とした生涯学習の推進のための基本計画です。具体的には、生涯学習の推進に関わる総合的かつ体系的な指針であり、生涯学習関連施策の基本的な考え方や事業等の方向性を明らかにするものです。計画の策定にあたっては、半田市の実態を踏まえ、上位計画、関連計画との整合を十分に図るものとします。



第5節 計画の期間

この計画の期間は令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間とします。本計画書は、中間年度にあたる令和7年度に中間見直しを行った改訂版です。なお、社会状況などに大きな変化が生じた場合には、必要に応じて見直しを行います

第6節 計画とSDGsとの関係

はんだ学びプラン 第3次半田市生涯学習計画とSDGsとの関係

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す世界共通の『持続可能な開発目標』のことです。

SDGsは、社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17の目標を、総合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

本計画には、SDGsの17の目標のうち、6つの目標が大きく関わっています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

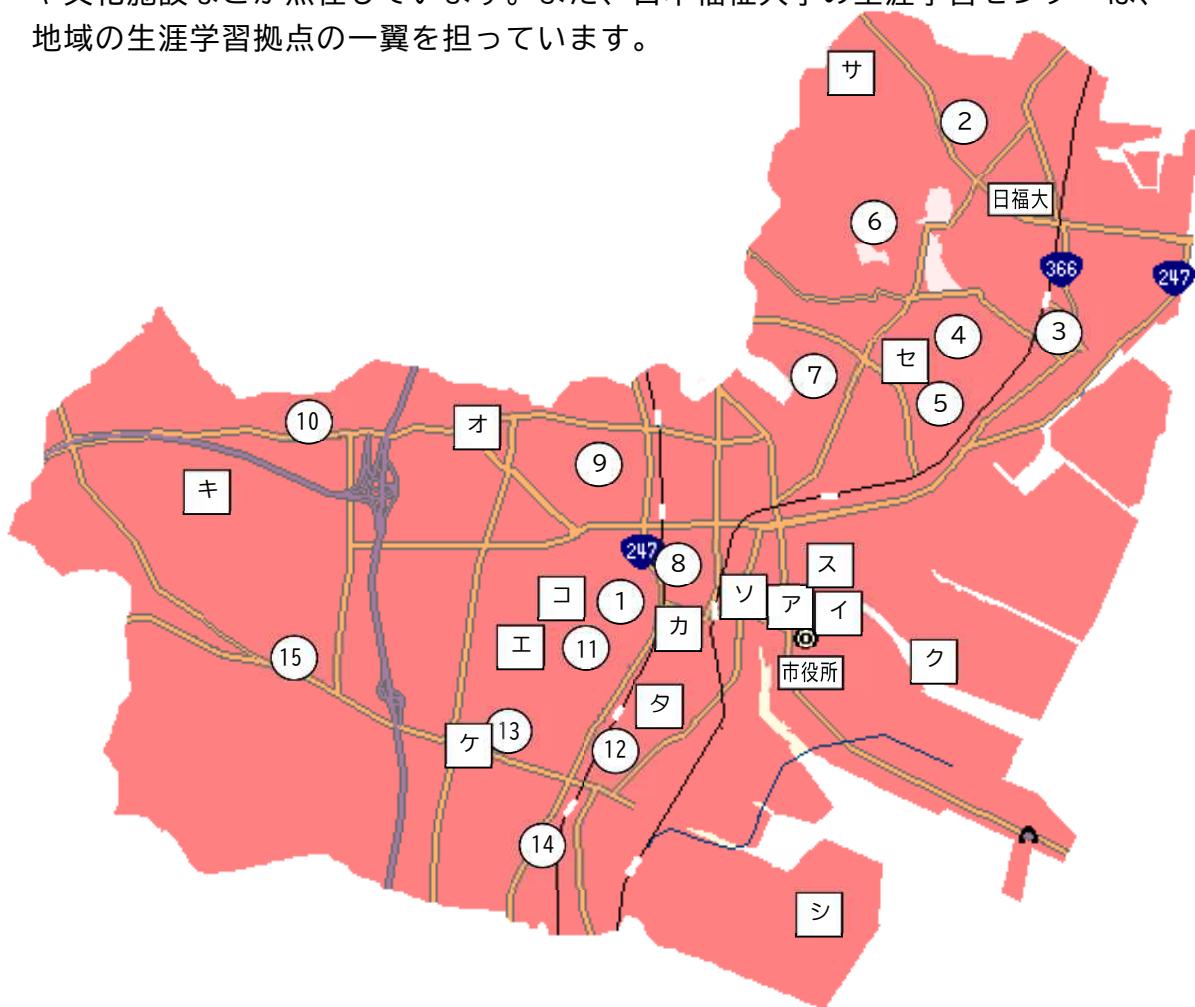


第2章 本市の現状

第1節 本市の生涯学習拠点施設

知多半島の中核都市である半田市の人口は 115,835人（令和7年4月1日現在）であり、多くの市民が日常生活の中でさまざまな学習活動や市民活動等を行っています。

市内には中央公民館をはじめ、14の地区公民館、図書館、博物館、体育施設や文化施設などが点在しています。また、日本福祉大学の生涯学習センターは、地域の生涯学習拠点の一翼を担っています。



<公民館>① 福祉文化会館 ② 有脇公民館 ③ 龜崎公民館・図書館(亀崎) ④ 平地公民館

⑤ 向山公民館 ⑥ 上池公民館 ⑦ 乙川公民館 ⑧ 住吉公民館 ⑨ 岩滑公民館 ⑩ 修農公民館

⑪ 協和公民館 ⑫ 成岩公民館 ⑬ 西成岩公民館 ⑭ 神戸公民館 ⑮ 板山公民館

<その他>① アイプラザ半田 ② さくら小学校生涯学習施設 ③ 横川小学校生涯学習施設（令和6年3月をもって廃止）

④ 図書館(本館)・博物館・空の科学館・体育馆

⑤ 新美南吉記念館 ⑥ 市民交流センター

⑦ 半田運動公園

⑧ 福祉ふれあいプール

⑨ 北部グラウンド

⑩ マリングラウンド

⑪ 乙川交流センターニコバル

⑫ 鉄道資料館

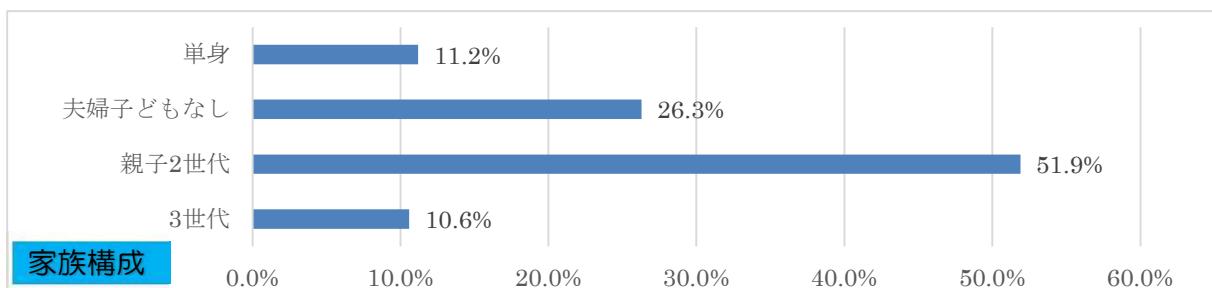
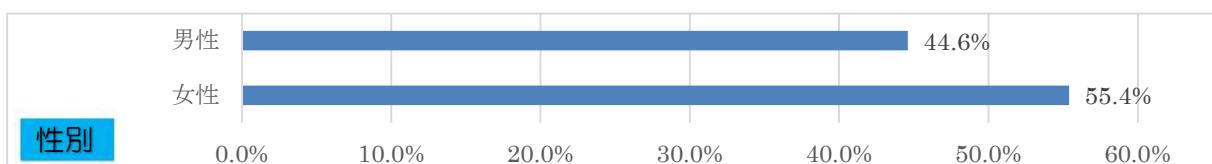
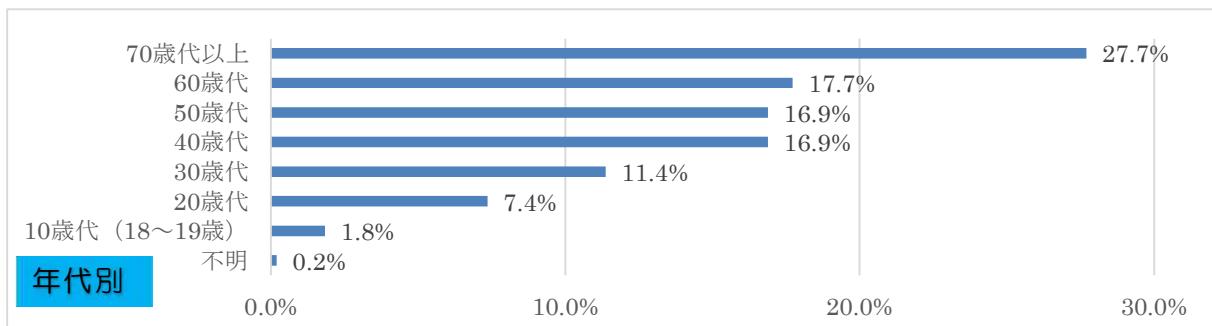
⑬ 上浜グラウンド

⑭ 成岩地域共創センター（令和8年7月開館予定）

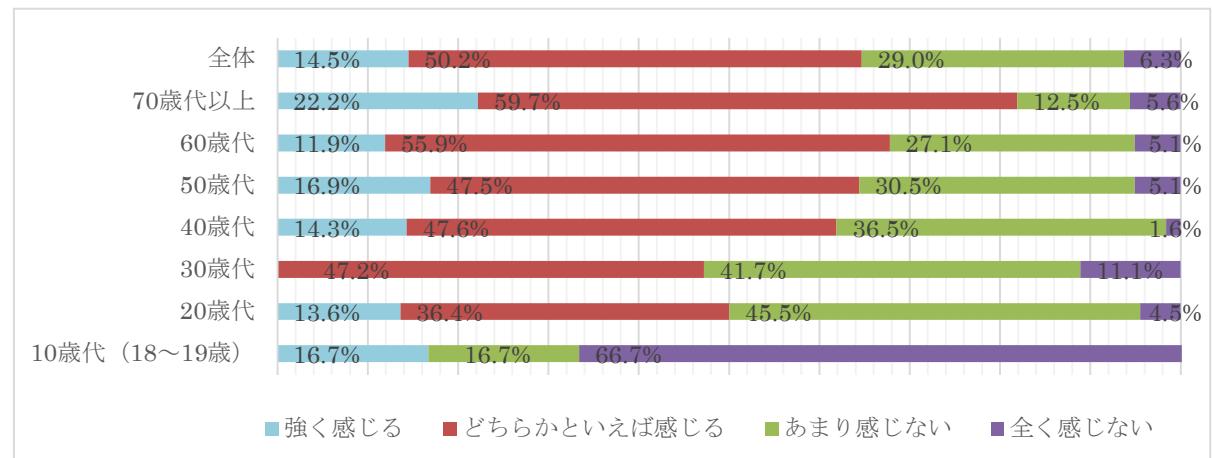
第2節 市民の生涯学習に関する意識

生涯学習に関する市民意識の現状を把握し、計画のさらなる推進を図るため、令和元年11月に、「半田市生涯学習に関する市民アンケート調査」（18歳以上90歳未満の市民2,000人を抽出、回答数598、有効回答率30.0%）を実施しました。

アンケート回答の年代別・性別・家族構成の割合



生涯学習の必要性



この結果からみる市民の生涯学習に関する意識は次のようになります。

回答の年齢構成と生涯学習の必要性について

回答の年齢の割合は、60代以上が45.4%と多く、高齢者の生涯学習への関心は高いといえます。また、親子2世代での家族構成が多く、親子3世代で生活している家族は10.6%と低いことがわかります。

平成27年度の調査結果では、生涯学習の必要性としては、「だれでも生涯にわたって必要」という考え方の市民が45.2%「必要と思う人がやればよい」という考え方の市民は、38.8%でした。今回の調査では、日頃から生涯学習の必要性を感じていますかという問いに、「強く感じる」「どちらかといえば感じる」と答えた市民は64.7%であり、生涯学習の必要性の認知は高くなっています。逆に「あまり感じていない」「全く感じていない」と答えた市民は36.3%でした。

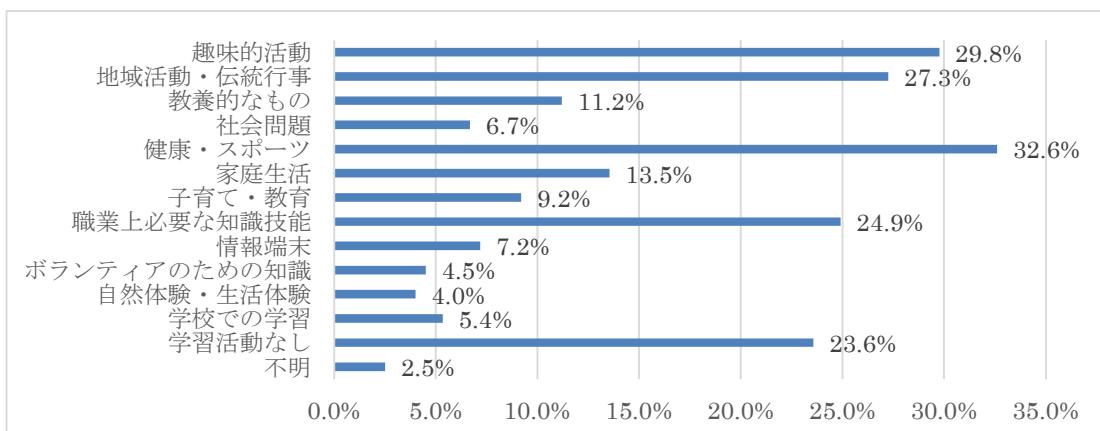
今回の調査結果を分析すると、「生涯学習の必要性」を感じ取っている年代は、50代以降歳が上がるにつれ意識が高くなっており、第2次半田市生涯学習推進計画の効用があったと思われます。生涯学習の必要性を感じ取っている年代には引き続き、生涯学習の推進を図る一方で、「生涯学習の必要性」をあまり感じていないと答える40代に至るまでの年代に、幅広くより一層生涯学習の推進を図っていくことができるよう、学びの応援体制を整えることが必要です。

学習への参加と目的について

学習への参加をしていると答える市民は、今回の調査で、76.4%を示し、市民の多くが日常生活の中で何らかの学習や活動を行っているといえます。内容的には、「趣味的な活動（音楽・美術・書道など）」「健康・スポーツ（健康法・ジョギング・栄養など）」に参加する市民が多く、平成27年度調査では8.1%であった「地域・コミュニティ」の活動が、「地域活動・伝統行事」の参加として、27.3%と増加しているのがわかります。市民の目がより地域活動・伝統行事に向いてきていると言えます。また、「家庭生活」「子育て・教育」への活動の参加も多くなってきています。

★ 「あなたはこの1年間で下記のような学習や活動をしたことがありますか」

(複数回答)



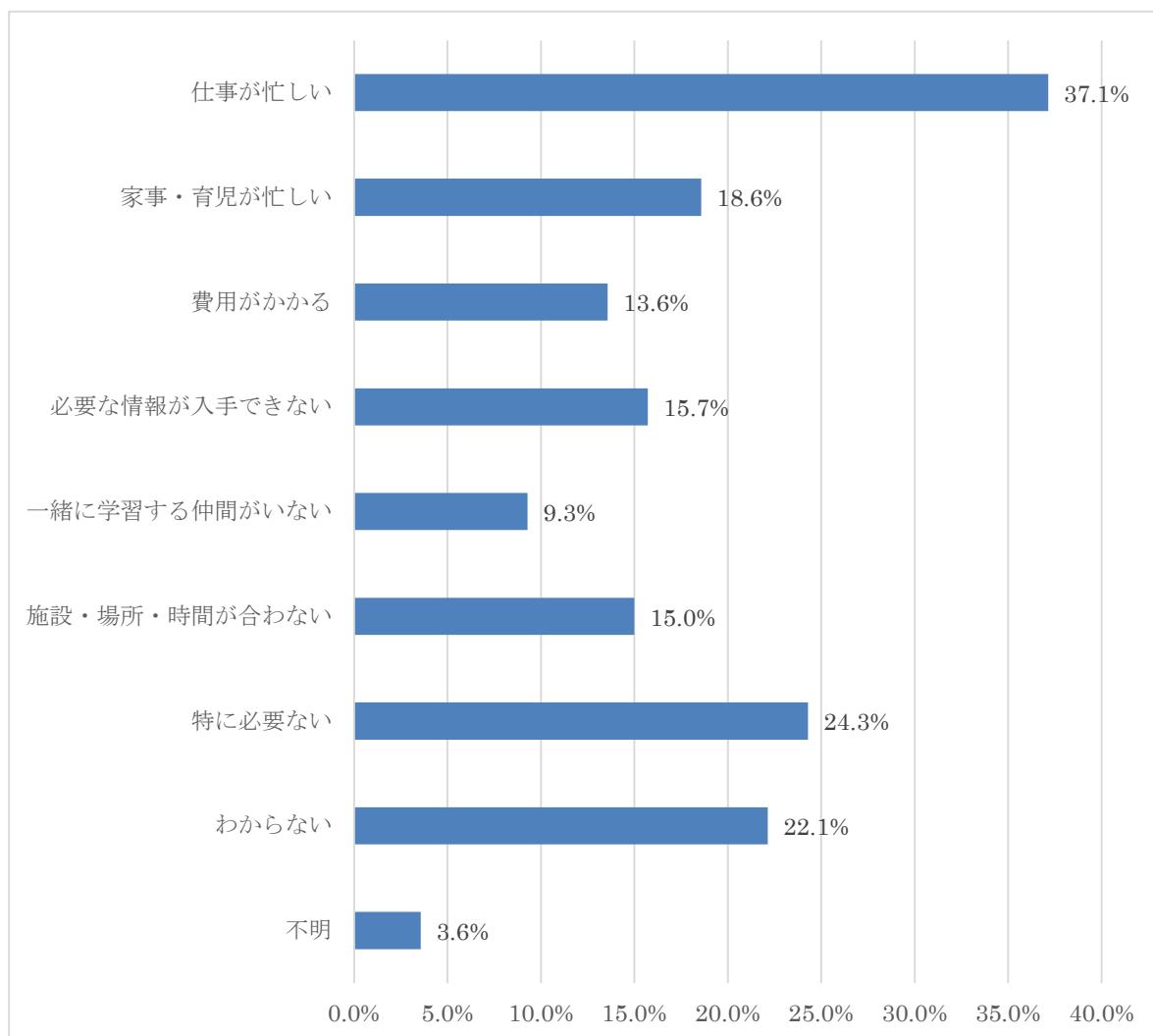
学習への不参加の理由について

学習への不参加の理由は、「勉強・仕事・家事で忙しい」が平成27年度調査の38.9%から、今回の調査では「仕事が忙しい」の項目だけで37.1%と高く、また「育児・介護で外出しにくい」が7.6%から、「育児・家事で忙しい」と答えた市民が18.6%と高くなっています。勉強・仕事・家事と学習への参加の両立が、時間的余裕のなさから難しいと感じている市民が多いと思われます。

時間的な余裕のない中で、学習に目を向かせることや、ライフスタイルに合わせて学びができる環境づくりを今まで以上に考えていく必要があります。

「学習をしていない理由」として、平成27年度調査で30.7%を占めた「場所を知らない」という課題は、より多くの情報を市民に提供してきた結果、「必要な情報が入手できない」15.7%・「施設・場所・時間が合わない」15.0%と改善されつつありますが、今後も情報提供の充実を図る必要はあると言えます。

★「学習や活動をしていない理由は何ですか」（複数回答）



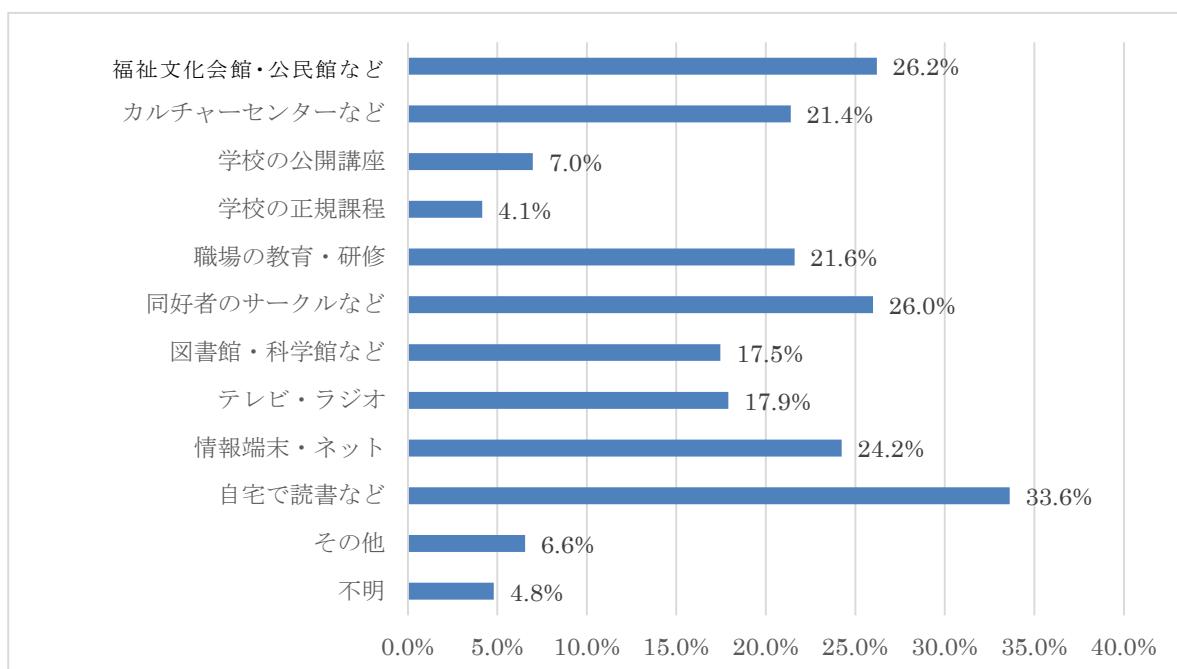
学習活動の場所や学習形態の結果について

情報提供の充実により、「福祉文化会館・公民館・体育館」などの公共施設を学習活動の場所として利用している市民が、26.2%と高い結果でした。年代別で見ると、年代が上がるにつれ高くなり、60歳以上の利用が格段に高く、高齢者にとっては、生涯学習の拠点として公共施設が根付いてきたといえます。

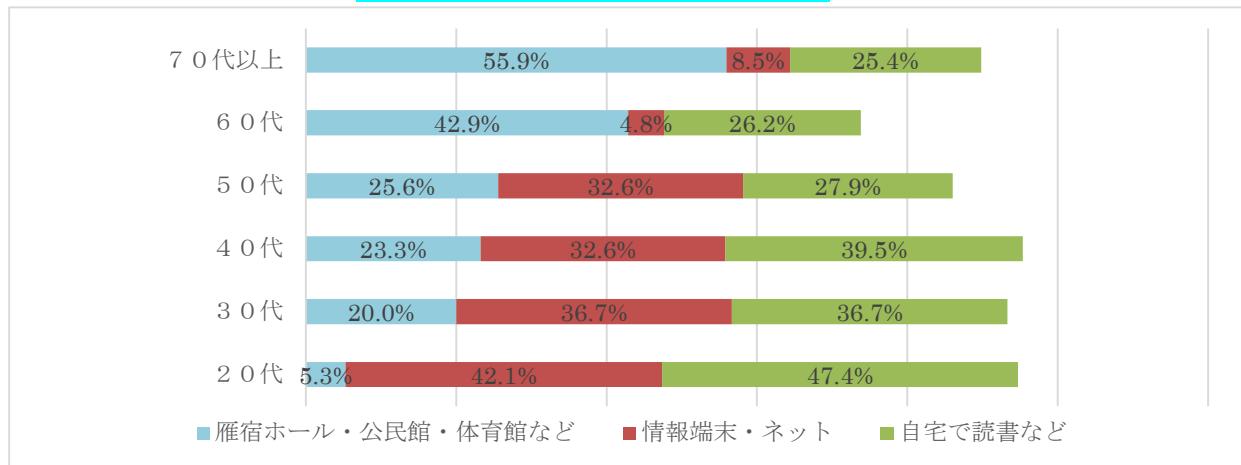
反対に、20代から40代に至るまでの学習形態としては「情報端末・ネット」や「自宅で読書など」の割合が高く、自宅にいながら学習するケースも多いといえます。

今後、在宅でもできる学びの環境を整えていくことも、生涯学習の推進のために必要だといえます。

★「どのような場所や形態で学習活動をしたことがありますか」（複数回答）



年代別に見る 主な場所及び形態



学んだことを、地域や社会での活動に活かしていきたいかの結果について

平成27年度調査で、「学んだことを周りの人に伝えたり、それらを活かして活動したりすることはあるか」の問い合わせ、「意識しない・不明」が54.2%と半数以上でした。今回の調査では、「活かしたいと思わない・わからない」と答えた市民が47.1%となり、学んだことを、地域や社会での活動に活かしていこうと考える市民が若干増えていることがわかります。

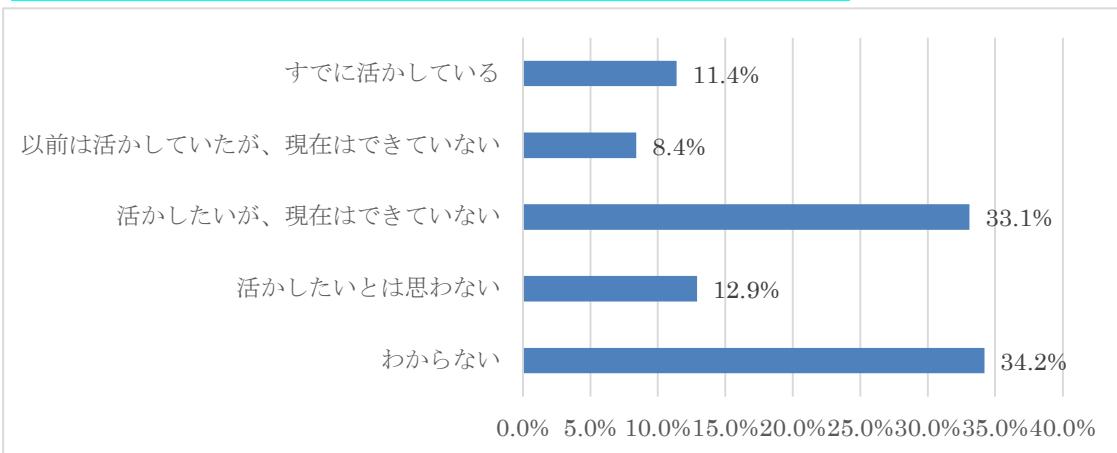
しかしながら、「以前は活かしていたが、現在はできていない」「活かしたいが、現在はできていない」と答える市民が、41.5%と高く、学習成果を社会に還元することができていない現状であることがわかります。

「以前は活かしていたが、現在はできていない」「活かしたいが、現在はできていない」と答えた市民の理由は、「活かす段階に達していない」が35.5%

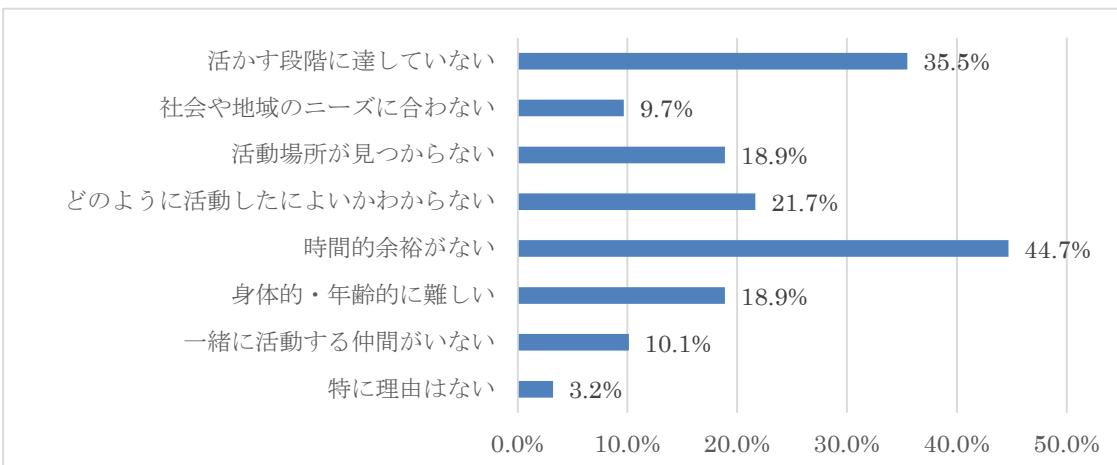
「活動場所が見つからない」18.9%「どのように活動してよいかわからない」

21.7%となっており、市民の意向に即した実践的な学習講座の開催やその学習成果を発揮する機会、情報提供の仕方の支援策を考えていく必要があります。

★「学んだことを、地域や社会での活動に活かしていきたいか」



★「学んだことを、地域や社会での活動に活かすことできない理由」



「ゲストティーチャー」制度の認知度の結果について

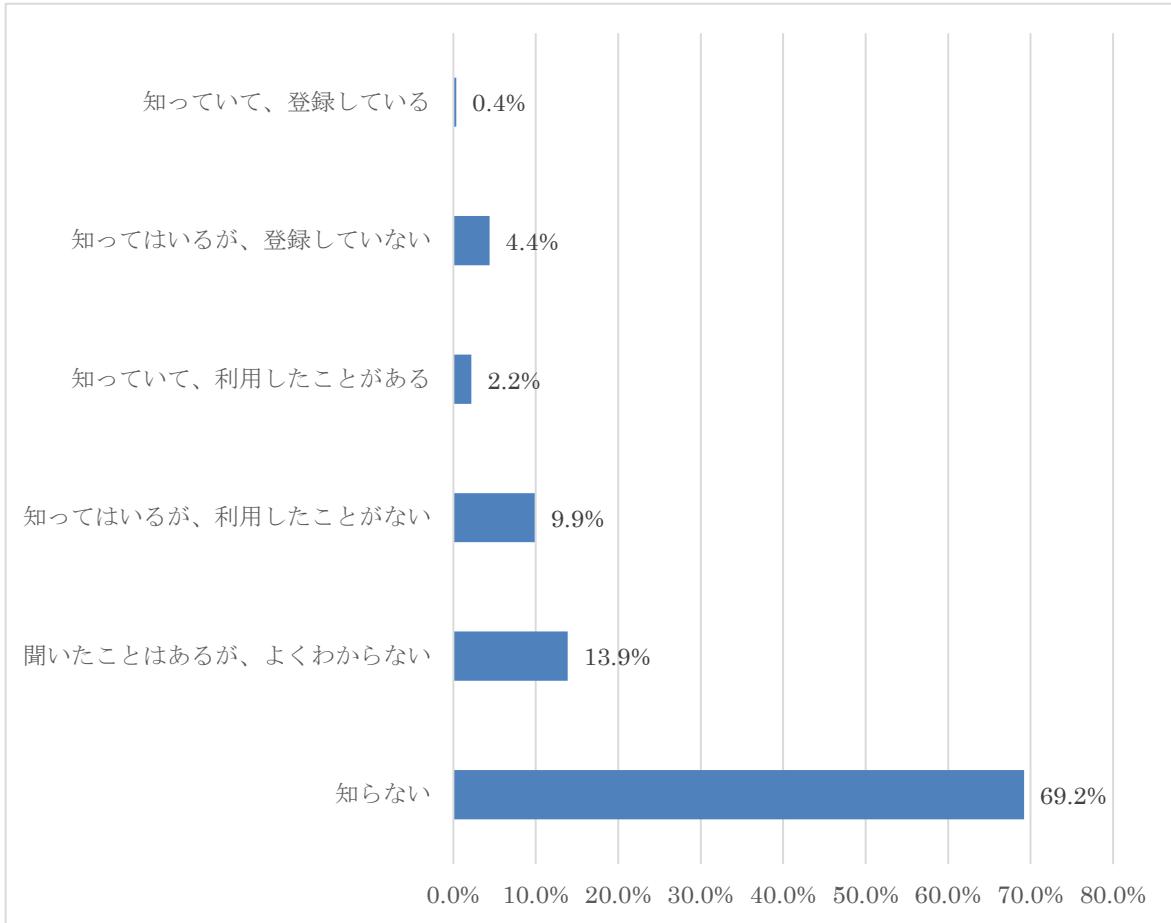
半田市では、小中学校、幼稚園、保育園、公民館などからの依頼に対し、事前に登録された一般市民の方が、特技を活かして、講師となって教える市民ボランティア制度を行ってきています。

令和元年度では、ゲストティーチャーとしての登録者数が183件と着実に数を増やしています。しかしながら、「ゲストティーチャー制度を知っていますか」の問いに、「知らない」と答えた市民が69.2%を示し、認知度が高いとは言えない現状であることがわかりました。

「知らない」と答えた市民に、いかにわかりやすく、そして目に留まるような周知活動を行っていくことも大切になってくると考えられます。

また、「知っていて、登録している」市民が0.4%であったことを受け止め、登録するための手順や選考方法などを含め、市民にわかりやすく、そして申し込みしやすい環境づくりをすることも大切になってきます。

★ 「ゲストティーチャー制度を知っていますか」



今後の方向性について

「生涯学習活動をより盛んにしていくために、半田市はどのように力を入れるべきだと思いますか」の問い合わせから見えてきた市民の声と、今までの結果の分析から見えてくる方向性は以下の3点と考えられます。

一つ目は、自分づくりのための学びの応援

ライフステージに応じた学習が提供できるよう、学習コンテンツの充実、在宅でも学べる環境を作ることで、学びとつながる自分づくりを応援します。

二つ目は、人づくりのための学びの応援

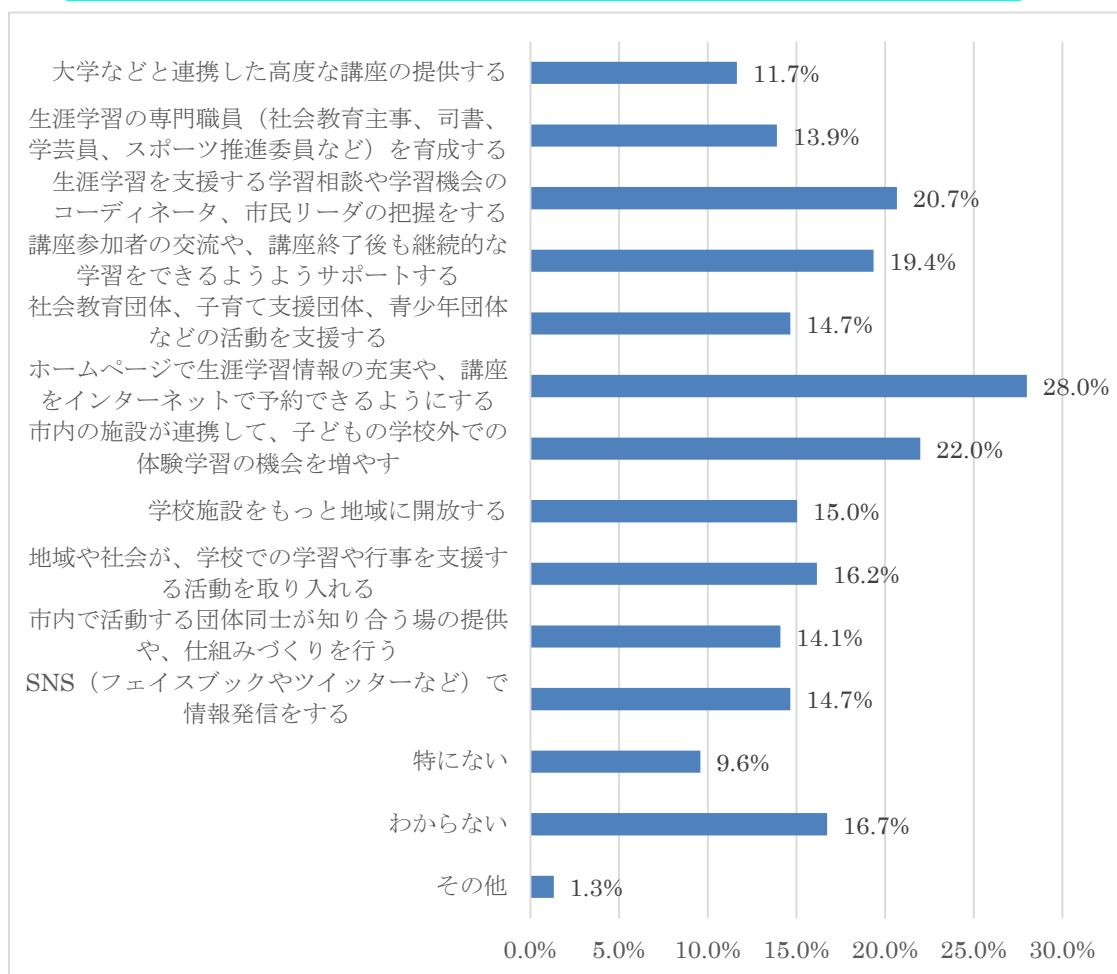
講師を含め参加者がつながる交流の場や、継続的な学習ができる学びの循環サイクル、自主的な講座開設ができるシステムづくりの確立をすることで、仲間とつながる人づくりを応援します。

三つめは、まちづくりにつながる学びの応援

地域にある各団体との連携の充実を図り、地域とつながるまちづくりを応援します。

★ 「市民の生涯学習活動をより盛んにしていくために、

半田市はどのように力を入れるべきだと思いますか」（複数回答）



<生涯学習に関するアンケート調査（令和7年5月実施）>

本市の生涯学習推進施策に関する現状の把握や今後の施策検討のため、令和7年5月に「生涯学習に関するアンケート調査」（半田市eモニター300人（20歳代～70歳代）、回答数284）を実施しました。

【調査結果概要】

生涯学習の必要性の認識

- ◇ 「強く感じる」：33%
 - ◇ 「どちらかと言えば感じる」：56%
- 合計89%が生涯学習の必要性を感じています。

最近1年間において行った学習や活動の内容（複数回答選択可）

- ◇ 「趣味的活動」：47%
- ◇ 「子育て・教育」：35%
- ◇ 「仕事に関する学び」：35%
- ◇ 「健康・スポーツ」：30%
- ◇ 「地域活動・伝統行事」：18%
- ◇ 「特になし」：21%

学習を行った場所や方法（複数回答選択可）

- ◇ 「情報端末（オンライン講座・動画・AI等）」：46%
- ◇ 「自宅での読書など」：45%
- ◇ 「公共施設（福祉文化会館・公民館・図書館・科学館等）」：37%
- ◇ 「職場の教育・研修」：30%

学習等の活動を行っていない理由（複数回答選択可）

- ◇ 「仕事が忙しい」：51%
- ◇ 「家事・育児が忙しい」：39%
- ◇ 「学びたい内容が見つからない」：34%
- ◇ 「費用がかかる」：32%

学んだことを地域や社会で活かせていない理由（複数回答選択可）

50%の方が「学んだことを地域や社会に活かしたいができない」と感じており、その理由について伺いました。

- ◇ 「活かす段階に達していない」：41%
- ◇ 「活かす機会や場所がない」：37%
- ◇ 「どのように活かしてよいかわからない」：41%
- ◇ 「時間がない」：41%

ゲストティーチャー制度の認知度

- ◇「知っている」：25%
- ◇「知らない」：75%

生涯学習情報の取得方法（複数回答選択可）

- ◇「はんだ市報」：71%
- ◇「市公式LINE」：29%
- ◇「その他のSNS」：26%
- ◇「チラシ・ポスター」：14%

今後の参加しやすい学習機会の形態（複数回答選択可）

- ◇「オンライン講座」：49%
- ◇「体験型の講座」：47%
- ◇「子育て世代向けの短時間講座」：36%
- ◇「平日夜や週末の開催」：35%

今後の重点項目（複数回答選択可）

- ◇「子どもの学校外での体験学習」：32%
- ◇「子育て世代の学びの場」：29%
- ◇「働く世代のリカレント教育」：29%
- ◇「働く世代のリスクリング」：27%
- ◇「デジタルツールの活用支援」：26%

第3節 課題の整理

アンケート調査の結果から、今後取り組むべき課題を整理しました。

（1）学習参加への阻害要因の解消

仕事や家事・育児などによる時間的制約や、費用負担、学びたい内容が見つからないといった理由により、生涯学習に参加できていない市民が一定数存在しています。市民が気軽に学びに参加できるよう、柔軟な開催形態や費用面への配慮、学びのきっかけを得やすい仕組みが求められます。

（2）学びの成果を活かす機会の創出

学んだことを地域や社会に活かしたいと考える市民は多いものの、「機会や場所がない」「活かし方が分からない」といった課題により実現できていません。学習成果を活かすため、活躍の場を創出することが必要です。

(3) 生涯学習施策や取組に係る認知度の向上

ゲストティーチャー制度など既存の施策について、十分に知られていない状況が見られます。市民が活用できる制度や仕組みを分かりやすく周知し、利用促進を図ることが課題です。

(4) 情報発信手段の多様化への対応

広報の中心は「はんだ市報」である一方、SNS等のデジタル媒体を通じて情報を得る層も増えています。紙媒体とデジタル媒体の双方を効果的に組み合わせた広報体制の充実が求められます。

(5) 多様なニーズに応じた学習機会の整備

オンライン講座や体験型講座、短時間講座や夜間・週末開催など、柔軟な形態の学習機会が求められています。特に子どものキャリア教育、子育て世代、働く世代を対象とした学び直しやスキル習得の場を充実させることが今後の課題です。

(6) 重点分野への取組強化

子どもの体験学習や子育て世代の学びの場、働く世代のリカレント教育、デジタルツールの活用支援などを重点施策として位置づけ、効果的に展開していくことが必要です。

第3章 基本目標と施策展開

第1節 「自分づくり」のための学びの応援

めざす 10 年後の姿

- ・子どもから高齢者、障がいの有無、国籍等に関わらず、すべての市民が幅広く学習活動の場に参加しています。
- ・ライフスタイルに合わせた学習機会の場が充実しています。
- ・生涯学習情報の提供が充実しています。
- ・乳幼児期からの継続的な読書支援が充実しています。

施策1 学習機会の充実

ライフステージ（乳幼児期から高齢者まで）に応じた学習機会の提供をはじめ、ニーズや時代に対応した講座の充実を図ります。

成人期、高齢期においては、心の豊かさや生きがいのために学ぶことを目的としたリカレント教育※の推進を図ります。

※リカレント教育：日本では、働きながら学ぶ場合、心の豊かさや生きがいのために学ぶ場合、学校以外の場で学ぶ場合もリカレント教育に含めている。

① 乳幼児期

乳幼児期の子どもとその保護者に対する学習の場を提供し、その充実を図るとともに、子育て支援の拠点施設を充実させます。

施 策 名	内 容
親子遊びや育児に関する講座の開催	遊びや育児に関する学習の場を設け、保護者の育児力の向上とともに、子どもの健全育成を図ります。
家庭教育講座・講演会の開催	乳幼児期の子どもを持つ保護者を対象に、家庭教育に関する学習の場を設け、家庭教育の振興との充実を図ります。
子育て支援拠点施設の充実	子育て支援の拠点施設である子育て支援センター「はんだっこ」を始め、児童センターや地域子育て支援拠点事業の実施施設等の事業内容を充実させます。

② 青少年期

青少年期は、豊かな人間性や自制心、自立心を身につける大切な時期であり、社会のルールやマナー、人間関係、他人を思いやる心や感性などを育むための学習を支援します。

施 策 名	内 容
地域学校協働活動の充実	学校・地域の連携により、豊かな心を育てるための体験活動や世代間の交流活動など、さまざまな活動を支援します。
子どもたちの体験活動の機会創出	子どもたちが、身近な場所で様々な文化・スポーツの体験活動に触れられる機会を創出し、子どもたちが自分の「好き」、「やってみたい」を見つけるよう後押しする。
キャリア教育※の充実	子どもたちが「夢」やその先にある「幸せ」を追い求めて努力することの尊さに気づき、社会的・職業的な自立に向け、目的意識をもって自分らしい生き方をするために、必要な力を身に付けていくことを支援します。
情報モラル向上プログラムの実施	青少年がインターネット等、各種情報機器を適切に活用するよう、情報モラルの向上を図ります。
小中学校におけるICT活用による学習環境整備	国のGIGAスクール構想に基づく、小中学校におけるICT活用の推進により、学習環境整備の充実を図ります。
子どもの安全・安心な居場所づくり	子どもたちが地域で健全に育成されるよう、放課後子ども教室や児童センターの事業の充実を図ります。
家庭教育講座・講演会の開催	青少年期の子どもをもつ保護者を対象に、家庭教育に関する学習の場を設け、家庭教育の振興との充実を図ります。

※キャリア教育：なりたい夢をもち、かなえるための能力や態度を育てる教育

③ 成人期

成人期は、幅広い期間であり、それぞれに応じた学習の充実・支援を図ります。また、勤労者に対しては、学習機会を充実させるとともに、開催日時等を工夫し、参加しやすい状況を整えます。

第3章 基本目標と施策展開

施 策 名	内 容
趣味や教養のための学習支援	市民が生き生きと豊かに暮らすため、趣味を身につけたり、教養を深めたりするための講座を充実させます。
勤労者のための学習支援	デジタルスキル向上のための講座など、勤労者のニーズに応じたプログラムの実施や参加しやすい時間帯での開催など、勤労者のための講座を充実させます。
学びのきっかけや学び直しのための学習支援	再雇用や再就職などのきっかけづくりになる講座の開設や情報提供を図ります。
在宅でも受けることができる学習支援	ホームページにより在宅でも学習できる学習コンテンツを情報発信します。時間や場所を選ばず学べるオンデマンド講座の充実を図ります。

④ 高齢期

高齢者が自らの健康について意識し、生きがいをもって楽しく暮らすための学習機会の提供・充実を図ります。

施 策 名	内 容
健康づくりを学ぶ機会の提供	教材を用いた学習とコグニサイズ※を組み合わせたプログラムで高齢者が健康づくりを学ぶ機会を提供します。また、通いの場等で健康体操を普及し、高齢者の社会参加、介護予防を支援します。
生きがいづくりの促進	市民など多様な主体による「通いの場」を充実させ、高齢者等の教養の向上及び生きがいづくりの促進を図ります。

※コグニサイズ：運動と認知課題（計算、しりとりなど）を組み合わせた、認知症予防を目的としたプログラム

⑤ 生涯全般

年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わらず、自分らしく生きるための学習機会の提供・充実を図ります。

施 策 名	内 容
生涯を通じた学びやキャリア形成支援	市民一人ひとりが自分らしく生きるための学びのきっかけとなる講座を開設します。
学びたい時に学ぶことのできる学習機会の充実	子どもから高齢者、障がい者等誰もが、学びたい時に、学ぶことのできる学習機会の充実を図ります。講座等に参加しやすくなるよう、開催方法（場所・時間等）を工夫します。

第3章 基本目標と施策展開

デジタルツールの活用支援	市民が安心して学習や生活ができるよう、スマートフォンやパソコン等のデジタルツールの活用を支援します。
スポーツに触れる機会の拡充	誰もが心身ともに健康でいられるよう、体力や年齢、障がいの有無、スポーツを実施する目的や場所などにとらわれることなく、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる機会の拡充を図ります。
「みる」「する」「ささえ る」スポーツの環境整備	地域のスポーツ団体や指導者等と連携し、安定的にスポーツの機会が提供できるよう、スポーツ活動の支援を実施します。また、様々な立場から楽しんでスポーツに関わることができる環境を整備します。
スポーツ施設の魅力向上	誰もが安心・安全にスポーツ施設を利用することができます。施設の効率的・効果的な管理運営を進めるとともに、新総合体育館など魅力ある満足度の高い施設整備を推進します。また、利用率が低い時間帯の利用者数増加を図ります。

施策2 学習情報提供の充実

より多くの市民が生涯学習に関心をもてるよう、より効果的な情報発信に努めます。

施 策 名	内 容
学習情報提供システムの充実	生涯学習情報誌の充実を図るとともに、市ホームページ等による生涯学習情報提供を充実させます。また、生涯学習や市民活動をはじめ、さまざまな活動に関する情報を集約し、インターネットを利用して、いつでも、どこでも情報を収集・発信できるシステムを構築します。 また、SNSなどについても積極的に活用し、ターゲットを意識したより効果的な情報発信をします。
ゲストティーチャー※制度の周知	ゲストティーチャー制度を気軽に利用できるよう、講座内容を載せた見やすい情報誌を作成し、周知を図ります。

※ゲストティーチャー制度：小中学校、幼稚園、保育園、公民館などからの依頼に、事前に登録された一般市民の方が、特技を活かして、講師となって教える市民ボランティア講師制度

施策3 読書支援の充実

学びの習慣が身に付くよう、乳幼児期からの継続的な読書支援や知的好奇心を育てる学習機会の充実を図り、市民の学ぶ意欲を高めます。

施 策 名	内 容
子どもの読書活動支援	ボランティア団体等と連携し、子どもたちに読書の楽しさ、保護者に本を通した親子の触れ合いの大切さを伝える事業を開催します。
誰もが利用しやすい図書館サービスの提供	電子図書館の運営、やさしい日本語での利用案内など、障がい者や高齢者、外国籍市民に配慮した図書館サービスを推進します。また、子育て世代をはじめとした多様な利用者が、気軽に立ち寄れる環境を整備します。

第2節 「ひとづくり」のための学びの応援

めざす 10 年後の姿

- ・地域の人材が生き生きと生涯学習活動をすすめています。
- ・地域の活動や学習を通して、人間性や社会性が育まれ未来のリーダーが育っています。
- ・市民の自主的な講座が多く開設されています。
- ・地域・家庭・学校の連携が深まることで、若い世代をはじめ、市民に助け合うボランティア活動が広がっています。

施策1 生涯学習推進のための人材活用と育成

1. 学んだことを活かすことができる場の提供

市民が学んだことや特技を活かせるゲストティーチャー制度をさらに充実し、指導者の育成と学習活動に取り組む市民の発掘と、自主的な講座を開設する講師と市民の支援を図ります。

施 策 名	内 容
ゲストティーチャー制度※の充実	ゲストティーチャー登録者を精選するとともに、市民が気軽に活用できるよう制度の改善・周知を図ります。

第3章 基本目標と施策展開

「まなびとゼミ」の充実	「学びと出会える場所」を提供することで、市民が「学び」と出会い、「学ぶ人」となる講座を精選し、充実を図ります。
-------------	---



2. 人材育成の充実と支援

意欲的な市民が主体的に活躍できるような場を提供するとともに、積極的に活動する団体への支援を行います。また、幅広い世代の市民が、市民活動を知り参加を始めるきっかけづくりを進めます。

また、人間性や社会性を育むため、地域の行事やボランティア活動など地域活動への青少年の自主的、自発的な参加を促進し未来のリーダーの育成を図ります。

施 策 名	内 容
ゲストティーチャーの活躍の場の提供	イベントにおけるワークショップ等において、ゲストティーチャー活躍の場を提供します。
市民活動団体の活躍の場の提供	市民活動を充実させるために、学び合い、成長しながら活躍できる場を提供します。
ボランティアの活躍の場の提供	子育て支援ボランティア、高齢者向けボランティア等、さまざまなボランティアの活躍の場の提供をします。
市民活動への参加促進	幅広い世代の市民が、市民活動などを知ったり、始めたりするきっかけづくりの場を設定します。

第3章 基本目標と施策展開

青少年健全育成団体の活動支援	地域の中で、心身ともに健康な青少年の育成を図るために、青少年健全育成活動を行う団体の活動を支援します。
----------------	---

施策2 市民の自主的な講座開設のためのシステムづくり

市民が、自主的に学び合いを続けることができるよう支援します。

また、教えたいと考えている市民へ、活躍の機会の提供を図ります。

施 策 名	内 容
自主的な学び合いの支援	「まなびとゼミ」の受講生等が、自主的に社会教育関係団体を結成するなど、学び合いを続けるための支援を図ります。
ゲストティーチャー制度の活用推進	教えたいと考えている市民にゲストティーチャー制度を案内し、登録を促すことにより、活躍の機会の提供を図ります。
講座内容の充実	講座終了後に、受講者及び講師、企画者による評価を行い、講座におけるそれぞれの満足度等を測り、講座内容のさらなる改善を図ります。

第3節 「まちづくり」のための学びの応援

めざす 10 年後の姿

- ・地域の課題を解決するために、生涯学習施設が多く利用されています。
- ・地域活動が充実し、伝統行事に参加する市民が増えています。
- ・地域の資源を生かした各種連携がさらに充実しています。
- ・健康で心豊かなまちづくりにつながる学びの機会が充実しています。
- ・誰もが芸術文化を鑑賞したり、表現したりする機会が充実しています。

施策1 生涯学習施設での学びの応援

市民及び市民団体が自主・共催事業を活発に行い、幅広い市民の参加を促進するための支援を行います。また、地域主体での住民が集まる交流事業を開催するとともに、地域のまちづくりを考える場として生涯学習施設を利用します。

また、だれもが使いやすい生涯学習施設とするために必要な施設の整備を進めます。

第3章 基本目標と施策展開

施 策 名	内 容
ネットワーク化と地域施設との連携	中央公民館を中心として、各生涯学習施設と連携し、情報を共有することで市民の自主・共催事業を広く展開します。
施設改善及び整備	安全で快適に利用できるようにするため、バリアフリー化及び老朽化の著しい設備の改善を計画的に進めます。
学習環境の整備	公共施設の有効活用等により、子どもたちが安心して学習に取り組むことができる環境を整備します。



学習スペース(福祉文化会館)

施策2 伝統行事に参加する市民への応援

市内には市民の貴重な財産である文化財が多くあり、文化財専門委員や専門家等の意見を踏まえ、適切な保存、継承に努めます。

特に、半田市の特色である海運・醸造文化やそこから育まれた山車を始めとした祭礼民俗文化を発信することで、市民の文化財保護意識の高揚を図るとともに、伝統行事への参加を促します。

また、全国に半田の文化の魅力を発信します。

施 策 名	内 容
醸造・山車などの特色ある文化、文化財の保存・継承	指定文化財や登録文化財の保存継承の手法や技術について、文化財専門委員を始め、専門家や学識経験者からの助言による恒久的な保護に取り組みます。
伝統行事、文化財の担い手確保の支援	市民が伝統行事や文化財を身近に感じ、自らが継承の担い手となってもらえるような仕組みづくりを伝統文化保存団体等と検討します。

第3章 基本目標と施策展開

若者が文化や文化財に親しむ機会の提供	半田の特色ある文化や文化財について、若者が触れ親しむ機会をつくり、魅力の気付きや発信、担い手不足の解消へ若者の意見を取り入れます。
--------------------	---



国の重要文化財 旧中埜家住宅



施策3 地域の資源を生かした各種連携への応援

日本福祉大学、小中学校、高校、企業等と連携を図りながら、市民参画による講座やイベントなど生涯学習関連事業の一層の充実を図ります。

また、それぞれが協力・連携した生涯学習関連の講座やイベントが開催できるような相互連携を推進していきます。

施 策 名	内 容
地域とともに子どもを育てる連携	地域社会全体で子どもを育てる仕組みをづくりを進めるとともに子どもたちが地域のよさを知るための活動を支援します。
日本福祉大学との連携	大学が開催する講座・イベントのPR支援、市と大学との共催による生涯学習プログラムの充実、各種講演会・講座等への講師派遣依頼などの取組を充実させます。
高校との連携	市内の高校との連携を図り、各種講座、イベント等を充実させます。産官学教育コンソーシアム「知多探求ネット」における連携を通じて、生徒の学びを推進します。

第3章 基本目標と施策展開

各種団体との連携	市民活動団体やボランティア団体、観光協会、商工会議所、農業団体などの地元団体と連携を図り、各種イベントを充実させます。
企業との連携	企業との連携を図り、企業ゲストティーチャーによる小中学校への出前講座や一般向けの講座、イベント等を充実させます。また、より多くの企業ゲストティーチャー登録を働きかけます。



子ども科学体験教室（企業等との連携）
「マイナス 196℃の世界を体験！」

施策4 健康で心豊かなまちづくりにつながる学びの応援

地域課題や生活課題に応じ、解決するための取組への支援を充実させます。

また、地域課題や生活課題に応じた学習機会の充実を図ります。

施 策 名	内 容
青少年の健全育成のためのまちづくり	人間性や社会性を育むため、地域の行事やボランティア活動など地域活動への青少年の自主的、自発的な参加ができる場の提供をします。
市民活動の活発なまちづくり	関心のある市民・学校・事業所が気兼ねなく活動ができる場の提供をします。
自分らしく生きられるまちづくり	個人の価値観やライフスタイルが多様化している中、すべての人が多様性を認め合いながら、性別にかかわらず、個性と能力を発揮できる社会の実現に向けた学びの場を提供します。
多文化共生への意識づくり	国籍、民族等の異なる市民が互いの文化的な違いや特徴を理解し尊重し合う学びの場を提供します。

第3章 基本目標と施策展開

健康的なまちづくり	市民一人ひとりが日常生活の中で、健康づくりに取り組むことができるような学習の場を提供します。
ふくしの理解がすすむまちづくり	ふ(だんの)・く(らしの)・し(あわせ)に対する理解を深めながら、地域の課題を知る機会、学び合える場をつくります。
環境を意識したまちづくり	市民の地球環境や自然環境に対する意識の向上のため、再生可能エネルギーや身近な自然、生き物などに対する環境学習を充実させます。



福祉文化会館

施策5 文化・芸術活動の参加機会の充実と活性化

本市の文化振興を発展させるため、文化・芸術の拠点として、福祉文化会館を積極的に活用します。また、各生涯学習施設についてもその有効活用を図ります。

1. 参加機会の充実

施設の特性を活かしながら各施設が連携し、各種講座の開設、市民が気軽に参加できる機会を充実させます。

また、時代のニーズに合わせ講座の内容を見直し、ライフステージに合わせて参加できる魅力ある講座を開設します。

施設名	内容
福祉文化会館	質の高い芸術や芸能等の文化と身近に接することができるよう文化振興の拠点として、より多くの市民が日常的に文化に触れられる機会を提供します。

第3章 基本目標と施策展開

図書館 亀崎図書館	各年齢層に向けた講座・行事を開催するとともに、関連資料の充実を図り、市民の文化活動を支えます。
博物館	子どもから大人まで、幅広い年代の市民が参加できるよう、学芸員の専門性を活かしつつ、専門的であっても分かり易い体験型の講座や企画展を、多岐にわたって行います。 また、祭礼・山車文化をより身近に感じられるよう、保存団体との連携による体験型の講座や展示を行います。
半田空の科学館	幅広い年代が楽しめるプラネタリウムの番組を投影し、それらと連動した企画展示を行います。また、星空を学ぶ星見会などを開催します。
新美南吉記念館	読書会や朗読会で作品に親しみ、講座や講演会で学び、新美南吉童話賞で創作に挑戦するなど、市民が多様なアプローチから新美南吉とその文学に触れる機会を提供します。
鉄道資料館	武豊線開業初期のレールを始めとした鉄道関連資料の展示を行ったり、C11265 蒸気機関車運転席で機関士気分を味わってもらったりして、文化に親しみ、楽しみながら学べる機会を提供します。



2. 文化・芸術活動の活性化

市民が文化芸術についての価値を見出せるよう、触れ親しめる機会を作り、市民の文化・芸術活動を活発に行えるよう支援します。また、郷土の歴史への理解と文化の振興に努めます。

施 策 名	内 容
文化事業の充実	質の高い芸術や芸能等の文化と身近に接することができるよう文化振興の拠点である福祉文化会館の事業の充実を図ります。また、文化振興を図る事業を充実させます。

第3章 基本目標と施策展開

音楽文化の充実	交響楽団などの高い専門性を持つ団体と連携をし、コンサート等を開催します。 各団体へのアウトリーチやワークショップを行い、次世代への文化の伝承に努めます。 音楽のあるまちはんだの新たな音楽文化の醸成を図る事業を充実させます。
気軽に文化芸術に触れられる機会の提供	福祉文化会館だけでなく、身近な地域の公共施設、まちなか、商業施設、イベント等における「まちなかでアート事業」等の実施により、気軽に文化芸術に触れられる機会を提供します。
企画展、館蔵品展等の展示会及び講座の開催	魅力ある展示会や講座を開催することにより、来館者の増加に努め、子どもから高齢者まで、幅広い層の学習機会を充実させます。
新美南吉を通じた学びの応援	時宜を得た企画展や講座を開催することで、新美南吉とその文学についての多様な学びを応援します。また、ガイドボランティア活動を通じて学んだことを活かす場を提供します。
特色ある半田の文化の魅力的な発信	文化財保存団体等との連携による半田の特色ある文化についての体験講座の開催や、高校生や大学生などの視点を取り入れた若者が興味をもてる情報発信を行います。
学校等と連携した郷土学習の推進	半田の特色である、海運・醸造文化やそこから育まれた山車を始めとする文化や文化財について、博物館と学校等が連携し、小学生の時期から触れ親しむことで郷土への誇りと愛着、文化への保護意識や当事者意識を育みます。
歴史的観光資源でのイベントの開催	歴史的背景を有する半田運河周辺や半田赤レンガ建物などにおけるイベントを充実させることで、半田の歴史・文化に触れ、親しむ機会を創出します。

資料編

1 市民からの意見・要望

令和元年11月に、「半田市生涯学習に関する市民アンケート調査」（18歳以上90歳未満の市民2,000人を抽出、回答数598、有効回答率30.0%）を実施し、市の生涯学習を盛んにするための。ご意見・ご要望を頂戴いたしました。

1 「自分づくり」のための学びの応援に関連すること

- ・市の生涯学習等、いろいろ活動するのに為になることがたくさんありますが、年と共に腰が曲がり外出するのが苦痛になりました。そのため、家の中で学べるテレビやラジオを聞いて画面に向かって返事をしています。
- ・若い方でも参加しやすくしてほしい。SNSで情報を発信するとよいのではないか。今はフェイスブックやツイッターよりもインスタグラムをやっている方が多いと思うので活動している写真や物などを投稿すると分かりやすく参加しやすくなるのではないか。
- ・オカリナ教室やペーパークラフト教室など 知多市などではあるのだが、半田にはないことが多いと思います。
- ・継続して学習ができるよう、定期的な講座もあって良いのかなと思う。
- ・気軽にお試しできそうなものもあってほしいかな・・・。
- ・趣味を持っていて趣味の仲間もいるとあえて生涯学習に参加することで時間的にしばられるような感じがある。ラジオ体操のように毎週○曜日△時に「そこへ行くとやってるよ～」みたいのなら参加しやすい。
- ・年齢によって情報を得るもの（媒体）が違うので、様々な形で情報発信していくことが必要かと思います。
- ・生涯学習の講座が多くなり嬉しいです。今後参加していきたいです。
- ・今から、キャッシュレスや、パソコン等、使えると老後の生活がしやすくなる。少しなりとも活動範囲を広げやすくなるものを学びたいと思います。
- ・近年高齢者が増加し、元気で生きる意欲も高くなっている。興味、関心も多方面に広がり、学習講座を開けば高齢者が多数を占めている。
- ・まずはきっかけ作りが大事なのと、そのきっかけとなる情報を発信する必要があると思います。また社会人は平日の参加が難しいので土日で学べる環境作りが必要だと思います。
- ・市報や展示物をよくみていますが、若い人向けが多く、参加出来る機会がありません。もう少し高齢者向けも増やして下さい。

1 「自分づくり」のための学びの応援に関連すること

- ・ターゲット層との結びつけが重要だと思います。生活を豊かにするものがあるといいと思います。今の生活に不安・不満のある人にそのような活動を届けることができるとより良い市民生活につながると思います。
- ・私のような学生でも参加しようと思えるものがあるといいなと思います。例えば「大学生限定」などくくりがあると大学生しか来ないなら行こうかなと思いますし、SNSや駅などにチラシがあるなど、行きそうな場所で宣伝してもらえれば目に入ると思います。
- ・土日に社会人が仕事などに役立つ講座を開催してほしい。（PCのスキルをつけるとか）定年しても再雇用や再就職などに役立つものがあるといいと思う。平日は仕事が忙しく又、残業などで参加できないなどの社会人はたくさんいる。将来を見据えた役に立つ講座なら高額でも参加したい社会人はたくさんいると思う。
- ・3歳までの赤ちゃんを育てている母親へのサポートの充実（世話の仕方、遊び、言葉 etc）をしていけるといいと感じている。（祖父母が仕事をしているということが増加し、孤立した状態でいる人が不安を抱えている・・・）
- ・仕事をしている人を対象にしているように思えない。土日などの開催が増えるといいと思う。
- ・色々な年齢の人が参加したいと思えるような講座や、参加できる時間帯（仕事をしている人が参加しやすい時間を考慮して）の幅を広げてみてはどうか。子育て中の人でも気軽に参加できるよう託児月があってはどうか。
- ・平日の講座では仕事があって参加できない事が多く残念です。
- ・生涯学習は行きたいと思ってゲストティーチャーのチラシなど見ることがあるのですが、土日や平日の夕方（18：00 以降）などの仕事をしている人が参加できるものが少ないと印象です。また地域の講座＝高齢者が参加するというイメージがあるので、若い人も参加しやすいような工夫が必要だと思います。
- ・生涯学習活動は自分自身の教養を高めるために必要かとは思いますが、仕事や育児など日々の生活に忙しく限られた時間を自分のために使うのか選択が難しい。
- ・勉強したい気持ちはあるが時間や費用、心に余裕がなく後回しになっている事があり残念です。自分に合っているものを誰かに教えて頂けたらありがたいです。

1 「自分づくり」のための学びの応援に関連すること

- ・私は今福祉文化会館を利用していますが、短期の講座などを玄関あたりに見やすいポスターで掲載していただけると参加する、しないはともかく、気に留めたりできるのでは・・・
- ・パソコンやスマホがあまり使えない人にも生涯学習に関する情報を取得する媒体があれば、いろいろな人が生涯学習に参加できると思う。
- ・特にこだわってやりたいことはないが、身体を動かすことを中心に生涯学習に参加してみたいとは思いました。まずは情報を集めること。インターネットを使えない人でも情報が得られるといいと思います。
- ・現在どんな講座があるのか、どうすれば新たな講座を開設してもらえるのか、半田市がどこまでサポートしてくれるのかを、市民がわかりやすく調べられる仕組み作りが一番大事だと思います。
- ・ネットワークの構築、顔の見える関係作り、若年層が生き生きと活動できる場を作る（ハード面もソフト面も）意見交換
- ・市報などで教室、講座など見かけます。昔は少なかった親子参加や子育て等たくさんあって自分の年齢、タイミングなどが合っていれば参加したかったなあと思うことがあります。この先もいろいろな企画頑張ってください。
- ・学習の必要性があるときにどこで学ぶ事ができるかわからない事が多いので何らかのガイドがあった方が良いと思います。
- ・半田市民にもっとわかりやすく情報を知らせてください。
- ・PRの仕方をもっと工夫すること。・土日での開催。・クラシティ、公民館などの有効活用。
- ・SNSだと若者にも簡単に情報とか届くからいいと思う。
- ・インターネット、SNSの有効活用
- ・情報共有する為の方法・システム作りの確立。
- ・募集しているページがあれば（ネット、市報など）見て考えたい。
- ・気軽に出来るような環境を整えていれば参加するかもしれない。申し込みとかが面倒な時もあるため。
- ・SNSは今若い子にとっては一番身近な発信源なのでSNSを活用すれば若い子は生涯学習を学びやすくなる。逆に年配の方は新聞などが見やすいと思うのでこの2つの活用は大事だと思います。

2 「ひとづくり」のための学びの応援に関連すること

- ・社会的に活動している人の講演など聞いて勉強できたらと思うので費用はかかっても時の社会情勢の話など聞いてみたい。ほかのまちに居た時、その機会があり、話を聞いたことがあるがとても勉強になった。
- ・教員退職者や、民間人でもそれに詳しければ講師になってほしい。好きな講座を探し、出かけられるように、講座を選べられれば良いと願っています。
- ・若年層をターゲットにした生涯学習のあり方を開発してはどうか？その時リーダー指導者が地域の高齢者という形が理想である？またその逆もあり、子どもや若者が指導者となる。
- ・高齢者の持っている力が発揮できるような場、地域の小学校・中学校等、子供たちの支援に関われる場（現在応援隊として参加しています）をもっと広げていってほしいと思います。
- ・ホームページが見にくい。フェイスブックやツイッターなどはやりたくないで市民が登録できるメールがあるとよい。
- ・そういうった場所に出向く人は決まった人のみになってしまっていると思うので、講座のみするのではなく若い世代や地域交流をふだんしない方に来てもらえるようにほかのイベント（抽選会や遊具体験など）と組み合わせて行った方が行きやすい。
- ・生涯学習は個人の意欲の問題も大きいと思います。
- ・参加したいと思う魅力的講座と仲間（誘われる、誘う）、継続して続けたいと思うメンバーがいたらいいです。
- ・幅広い年齢層が集まる学習及びその活動が良いと思います。
- ・他の人との親睦が少ない。
- ・仕事と子育てで、全く自分の時間が持てなくてこのままじゃつまらないと思っていたが、5人集まれば学べるチャンスがあるのだとワクワクしてきました。もっと手軽に学べるチャンスが作れれば現実的になるのかなと思います。ラインとかで予約できたら助かります。

3 「まちづくり」のための学びの応援に関連すること

- ・区民館を利用して、そろばん、書字など親子で利用したり出来るようにしてほしいです。もっと区民館が若い人達にも利用できる学習の場があるとよいと思います！
- ・もっと受験生が自習できる場所を増やして欲しいです。
- ・近くの神社でコミュニティールームとして開放したり習い事を行ったりしています。とても良いことだと思うのでこれからも続けてほしい。
- ・誰もが気軽に学習に取り組める環境（自習スペース）を用意すると盛んになると思います。
- ・学校施設をもっと開放する。市民の人にも開放してほしい。
- ・生涯学習として体づくりを積極的に行おうとしているが、半田市は道が悪くサイクリングがやり辛い。道（歩道、自転車道）を舗装し、学生から成人までジョギングやサイクリング等の生涯スポーツを楽しめる環境にして欲しい。
- ・スポーツを通じて学び、健康促進するのが良いと思います。1人でも気軽に参加できるようなイベントがあると地域交流も深まるかもしれません。
- ・直接生涯学習とは関係ないが、ブラジルポルトガル語を継続的に学習できる場があれば市の人口の数パーセントを占めるブラジル人との交流もしやすくなるかと思う。
- ・ここ数年、福祉文化会館で催されている高度な芸術作品を鑑賞していると、大変刺激となって、新しいことを学んでみたいと思うようになりました。今後も質の高い芸術作品をどしどし招へいし、開催してほしいです。

2 半田市生涯学習推進協議会委員名簿

令和元年度 半田市生涯学習推進協議会委員名簿

	氏 名	所 属 等
委員	鈴川 慶光	半田市教育長
	加来 昭子	半田市社会教育委員
	竹内 浩一	半田市社会教育委員
	小島 孝志	半田市区長連絡協議会委員
	長谷川寛子	半田市文化協会代表
	榎戸 大介	半田市スポーツ協会代表
	清澤 吉徳	半田市老人クラブ連合会代表
	山下 美保	半田市小中学校校長会代表
	早川 寿樹	半田市小中学校教諭代表
	稻澤 由以	半田市内高等学校校長代表
	小坂 和正	半田市社会福祉協議会 事務局長
	松本 一代	学習者代表
	板倉 恵美	半田女性活動連絡協議会代表
	米持 三幸	半田商工会議所代表
	芳金 秀展	公益社団法人半田青年会議所代表
	福田 昌寛	連合愛知知多地域協議会代表
	澤田 泰尚	半田市公民館連合会代表
顧問	千頭 聰	日本福祉大学地域連携推進機構長

【市事務局】

岩橋平武（教育部長）	波田 聰（主任指導主事）
鈴村貴司（生涯学習課長）	富田康雄（教育主事） 新美恭子（副主幹）

【関連部署】

山田 宰（企画課長）	長谷川信和（市民協働課長）
大嶽浩幸（環境課長）	榎原宏之（地域福祉課長）
倉本裕士（高齢介護課長）	伊藤奈美（子育て支援課長）
高浪浅夫（幼児保育課長）	竹内 清（スポーツ課長）
山口知行（保健センター事務長）	山下由美（図書館長）
間瀬浩平（博物館長）	榎原一人（新美南吉記念館長）

【日本福祉大学事務局】

大崎博史（企画政策課長）	岡崎佳子（企画政策課長主幹）
--------------	----------------

令和2年度 半田市生涯学習推進協議会委員名簿

	氏 名	所 属 等
委員	鈴川 慶光	半田市教育長
	内藤 菜穂	半田市社会教育委員
	鈴木 恒夫	半田市社会教育委員 半田市文化協会代表
	榎戸 大介	半田市スポーツ協会代表
	清澤 吉徳	半田市老人クラブ連合会代表
	山下 美保	半田市小中学校校長会代表
	水野 知己	半田市小中学校教諭代表
	稻澤 由以	半田市内高等学校校長代表
	小坂 和正	半田市社会福祉協議会 事務局長
	松本 一代	学習者代表
	都築 広子	半田女性活動連絡協議会代表
	森 啓貴	半田商工会議所代表
	細川 俊輔	公益社団法人半田青年会議所代表
	竹内 宏行	連合愛知知多地域協議会代表
	武内 雅	半田市公民館連合会代表
顧問	千頭 聰	日本福祉大学地域連携推進機構長

【市事務局】

岩橋平武（教育部長）	鈴木康弘（主任指導主事）
新美恭子（生涯学習課長）	竹内 光（教育主事）
	赤坂英寿（主査）

【関連部署】

大木康敬（企画課長）	長谷川信和（市民協働課長）
大嶽浩幸（環境課長）	竹内 正（観光課長）
杉江慎二（地域福祉課長）	沢田義行（高齢介護課長）
伊藤奈美（子育て支援課長）	竹内 健（幼児保育課長）
加藤計志（スポーツ課長）	沼田昌明（保健センター事務長）
山下由美（図書館長）	間瀬浩平（博物館長）
遠山光嗣（新美南吉記念館長）	

【日本福祉大学事務局】

赤松伸一（企画政策課長）	岡崎佳子（地域連携コーディネータ）
--------------	-------------------

3 半田市社会教育審議会名簿

令和7年度 半田市社会教育審議会名簿（中間見直し）

氏名	
小浜 享子	会長 半田市社会教育委員
田中 祐佳	副会長 半田市社会教育委員
榎原かおる	半田市社会教育委員
笠井 香里	半田市社会教育委員
稻生 俊彦	半田市社会教育委員
長田文実香	半田市社会教育委員
小出 充訓	半田市社会教育委員
原田眞偉子	半田市社会教育委員
大矢 里実	半田市社会教育委員
牧野 秋男	半田市社会教育委員

半田市生涯学習推進計画の策定や改訂に係る審議機関は、半田市生涯学習推進協議会の廃止に伴い、半田市社会教育審議会に移行しました。

【市事務局】
森田知幸（教育部長）
青木美希（生涯学習課長） 酒井 諭（副主幹） 邑上祥二郎（副主幹）
【関連部署】
渡辺富之（市民協働課長） 中村省吾（観光課長） 太田敦之（環境課長） 山本勇夫（地域福祉課長） 木村智恵子（高齢介護課長） 竹内 健（健康課長） 森本総一郎（子ども育成課長） 三輪象太郎（子育て相談課長） 内藤 誠（学校教育課長） 門田和博（スポーツ課長） 藤井寿芳（図書館長） 関 正樹（博物館長） 遠山光嗣（新美南吉記念館長）



はんだ学びプラン 第3次半田市生涯学習推進計画改訂版
発行 令和3年4月
改訂 令和8年4月
半田市教育委員会生涯学習課（半田市福祉文化会館内）
TEL：0569-23-7341 FAX：0569-23-7629
〒475-0918 半田市雁宿町1丁目22番地の1
Eメール：shougai@city.handa.lg.jp
